

国際会計論 Exercise

Chapter 10: リースの会計

＊ 解答はすべて解答用紙に記述してください。

問1 法律上賃貸借取引であるリースの借り手の会計処理において、資産と負債を認識する理由について、250 文字程度で説明しなさい。

問2 X 社は、×1 年 1 月 1 日に、製造機器（以下、リース資産）を扱うリース会社 Y 社との間でリース契約を締結し、リースを開始した。下記の【資料】に基づいて、【設問】に答えなさい。X 社および Y 社の決算日はともに 12 月 31 日である。

【資料】

- ・ リース期間は 5 年間であり、リースを延長または解約する期間の選択権はない。
- ・ リース料は年 600,000 円であり、X 社は Y 社に各年度の期末に現金で支払う。
- ・ X 社および Y 社にリースを行うための当初直接コストは発生しない。
- ・ Y 社は X 社に対するリース・インセンティブとしての補償を行わない。
- ・ Y 社のリースの計算利率は 5% であるが、X 社は容易に算定できない。
- ・ X 社の追加借入利率は年 3% である。
- ・ X 社が採用する減価償却の方法は定額法である。
- ・ リース資産の耐用年数は 5 年である。見積残存価額は 0 円である。
- ・ Y 社の正味リース投資未回収額は 2,831,041 円であり、リース資産に係る公正価値は 3,000,000 円、Y 社のリース資産の取得原価は 3,000,000 円、無保証残存価値は 297,827 円である。

【設問】

- (1) 借り手である X 社のリースの開始日（1 月 1 日）および決算日（12 月 31 日）における仕訳を示しなさい。
- (2) 貸し手である Y 社のリースの開始日（1 月 1 日）および決算日（12 月 31 日）における仕訳を示しなさい。なお、当該リースは、ファイナンス・リースに分類される。

国際会計論 Exercise 解答用紙

Chapter 10	ID Number	Name	Grade
リースの会計			

問 1

--

問 2

(1) 借り手である X 社の仕訳

(単位 : 円)

M/D	Debit	amount	Credit	amount
1/1				
12/31				

(2) 貸し手である Y 社の仕訳

(単位 : 円)

M/D	Debit	amount	Credit	amount
1/1				
12/31				